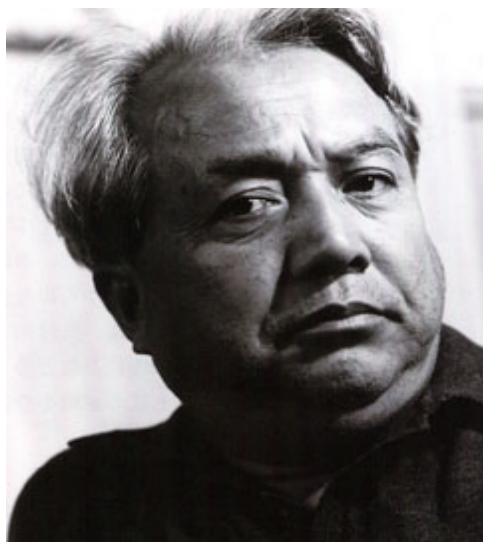




Outside Review

PIONEER

先駆者



里見明正

情熱をビジュアルで伝導する近代画家

わたしたちが知ろうとしないだけで、熊谷には数多くのアーティストが存在する。近代画家の里見明正もその一人で、大正から昭和にかけて活躍した。熊谷中学校（現熊谷高校）で大久保喜一に絵画を学び、卒業後は東京美術学校（現東京藝大）油絵科に入学し、その才能を如何なく発揮。明るい色彩とデフォルメされた作風が印象的な"里見スタイル"を確立。筆跡を強調し、原色による印象を強く残しながら、そのモチーフから得た情熱をそのままキャンパスに表現しています。熊谷で生まれた感性が、第三者の心に伝染する。芸術という視点から街作りを本気で考えてみたらどうだろうか？感性が生まれ、そだつまち。その感性がまた人を動かす。最強じゃないか。

ART

芸術



キリスト

聖夜の夜に感じること

左で紹介した近代画家、里見明正の作品。第3回日展に出品された「墓地へ運ばれたキリスト」数ある作品の中でも特に印象に残った作品を紹介します。デフォルメされながらも、力強い原色使いが作品の更なるエッジを与えている感じがして、その矛盾に戸惑う。単純に表現がかっこいいですね。感度の高い物に對峙すると、自分自身の感度も一気に高まる感じがしてほんとたまらないです。芸術と聞くと何か堅苦しいイメージが先行してしまうが、もっとカジュアルにアートを感じられる文化を創りたいですね。

12 OUTSIDEREVIEW

2013DEC

OBJECT

造形美



聖パウロ教会

大正が生んだ、近代建築と言う傑作

明治と昭和のビッグネームに挟まれ、どうしても印象に残りづらいとされる大正。事実はどうなのか？15年と短いながらも、国内外が激動の時代であった。日本では2度の戦勝（日清・日露）を経て工業化が進み、帝国主義の国として欧米列強と肩を並べ、勢いを得て第一次世界大戦にも参戦、勝利の側につき国中が国威の発揚に沸いた時代である。それに伴い劇的に生活スタイルが一新され、日本歴史上で最も感度が高い時代であったと思う。一般的にかっこいいとされる建築物は、大正に生まれた物が多い。東京駅しかり、西洋の建築様式が色濃くでており、品の高さすら窺える。聖パウロ教会は、震災・戦火にも耐え抜いた歴史の生き証人である。美しい物は残る、それを体現した数少ない傑作だ。見る事に意義がある建築物。

CHARACTER

キャラクター



踊る埴輪

誰もが知らずに記憶する埴輪のアイコン

埴輪と聞かれたら何をイメージするか？大抵の人が『踊る埴輪』を埴輪のイメージとして認識しているだろう。有名すぎる埴輪、ご存知の方も多いとは思いますが、熊谷の江南で出土されたものです。冷静に考えて凄事実ですよ。ジャンルを問わず多方面の分野に影響を与えたのも事実。イヤミもよりも上品にシェーをこなし、はに丸君なる物も誕生させた。声優を担当した田中さんが30年目にして衝撃の告白をした。愛くるしい『はにや』のフレーズが有名だが、録音の際に『はにや』と同時に恐ろしい爆音の屁をかましたそうなの。しかもOKサインが…。密室のヒンベエよりも茶の間がビックリですね笑。何はともあれ、平和のアイコンとして機能している事が微笑ましいじゃないですか。NHKのクリエイティブ力凄いですね。

6
♥

6
♥

6

OUTSIDEREVIEW

感度の別アングルを発信する
communication seeds

2013.12-Lot.No.6
BEARCANION PUBLISHER